

18000  
30  
540000

540000  
12  
1080000  
4500000  
209493130日

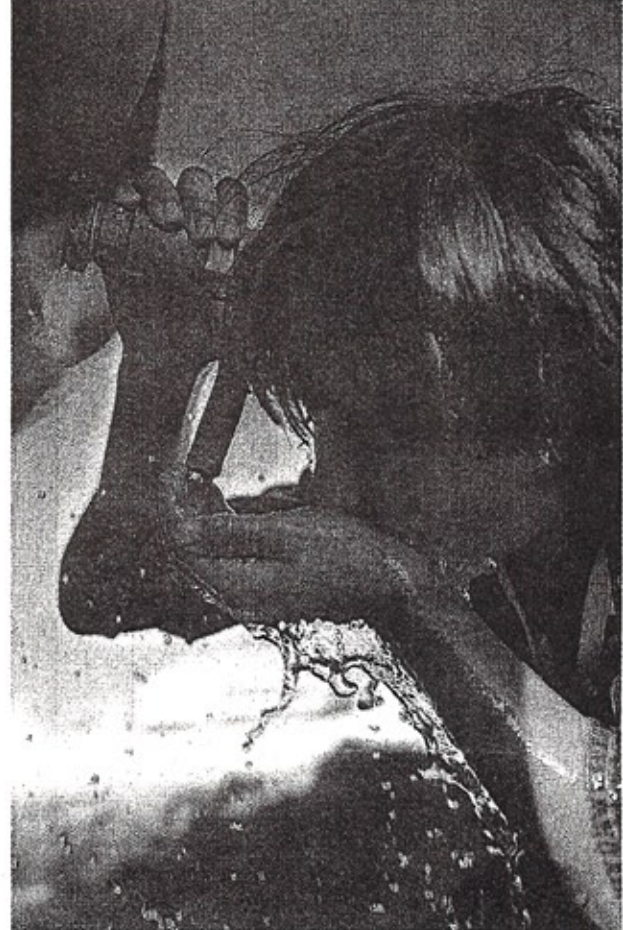
558 0000

データからわかったこと

- 1 毎日、約1万8千人の5歳未満の子が亡くなっている
- 2 小学校に通っていない子は約5700万人
- 3 子どもの15%が「児童労働」をしている
- 4 女の子の11%が15歳になる前に結婚する

イラスト・たなかさゆり

# 安全な水、命の証しを



シリア難民を受け入れているヨルダンの難民キャンプで、安全な水を飲む女の子—どちらも日本ユニセフ協会提供

「子供白書」が語る世界の現実

小学校を卒業できる子どもの割合は、日本では100%なのに途上国では57%。世界の子どもたちが置かれた状況をデータで伝える「世界子供白書2014 統計編」の日本語翻訳版（日本ユニセフ協会）が、3月末に発行されました。世界の子どもたちを取り巻く環境について考えてみましょう。

（中塚豊）

1ヶ月で54万人  
なくなっている

1年で648万人  
なくなっている

板橋区人口  
60万人

鳥取県人口  
59万人

1km<sup>2</sup>の中に  
東京は5764人  
いる  
とてりは108人  
いる

ユニセフ  
世界の母子  
福祉のために  
活動している。  
国際連合の  
団名。



「出生登録」増える

データが政策に影響を与え、子どもたちの環境が良くなった例があります。中部アフリカのコンゴ民主共和国では、2010年の調査で、親が子どもの誕生を届け出る「出生登録」は28%。登録されていない7割以上の子は、予防接種を受けたり学校に通ったりできませんでした。低い数値

が地域を巻きこんだ行動計画につながり、出生登録は急増。ある地区では、2012年6月の6%からこの年の12月には41%に増えました。「データ自体は世界を変えられないけれど、きちんと情報を集めて、政策を決める大人に示せば世界は変えられる」と中塚さん。

日本の子どもたちも、結果から考えられることは多くありそうです。大

アフリカのニジェールでは、都市部の100%の世帯で安全な水を飲めますが、農村部では39%。「平均値では見えない格差が現れました。どこに支援を優先すべきかを知る指標にもなります」と日本ユニセフ協会の中塚まどかさんはいいます。

ユニセフが行動の軸にしているのは、1989年に国際連合（国連）で採択された「子どもの権利条約」です。ここで守られるべき、子どもたちの生活や教育の権利がうばわれていないか。それをデータで示して、環境を良くするねらいです。

中塚さんは「自分にも、世界の子どもたちにも同じ権利がある。どうすればみんなの権利が守られるかを考えてみてほしい」と話しています。

ユニセフは今回のデータをもとに課題などを伝える「報告編」を11月に発表する予定。「統計編」は、日本ユニセフ協会のウェブサイト（j.unicef.or.jp）から読むことができます。

白書は、子どもたちの権利を守る政策をつくるためのデータを集めようと、国連児童基金（ユニセフ）が1980年から

データは、国の中でも格差が大きいことを示しています。たとえば、西

は、おどろきの内容かもしれませぬ。

毎年つくっています。今回は世界190以上の国と地域を対象に、5歳未満の子の死亡率や学校に通っているかどうか、安全な水の利用など115項目を調べました。

毎日1万8千人の5歳未満の子が、予防できる病気などで亡くなっている。5〜14歳の15%が働いている。女の子の11%が、15歳をむかえる前に結婚している。日本に暮らしている子には、おどろきの内容かもしれませぬ。

アフリカのニジェールでは、都市部の100%の世帯で安全な水を飲めますが、農村部では39%。「平均値では見えない格差が現れました。どこに支援を優先すべきかを知る指標にもなります」と日本ユニセフ協会の中塚まどかさんはいいます。